

来週の市場とレート予想

	6/26 (月)	6/27 (火)	6/28 (水)	6/29 (木)	6/30 (金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	△ 300	△ 1,000	△ 1,000	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 9,700	+ 1,000	△ 1,000	ト ン	ト ン
資金需給	△ 10,000	ト ン	△ 2,000	△ 1,000	△ 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還 (3M)				
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,600 CP等買入 △ 400 国債補完供給 + 300				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,300 社債等買入 + 1,500	国債買入 + 8,800 短国買入 + 7,500			
(日本)	金融政策決定会合における 主な意見(6月15、16日)	資金循環統計(1-3月)		原田審議委員、講演 (資本市場研究会)	当面の長期国債等の 買入の運営について 完全失業率(5月) CPI(全国5月、東京都区部6月)
(海外)	米 耐久財受注(5月)	米 消費者信頼感指数(6月) 米 ミネアポリス連銀総裁、講演 英 イェンFRB議長、講演(ロンドン) 英 ファイアテルファイ連銀総裁、講演 (ロンドン)	米 中古住宅販売成約指数(5月) 米 FRB、包括的資本分析 (CCAR)の結果公表	米 1-3月GDP(確定値) 米 新規失業保険申請件数 (24日終了週) 欧 ユーロ圏景況感指数(6月)	米 シカゴ製造業景況感指数(6月) 米 ミシガン大学消費者 マインド指数(6月、確定値) 欧 ユーロ圏CPI(6月、速報値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

<インターバンク>

今週の日銀当座預金残高は、週初357兆6,400億円から始まった。その後は国債・短国買入オペや貸出増加支援オペ等の要因で増加し、週末には361兆6,000億円となった。  
無担保コールON物の加重平均金利は、週を通して△0.058~△0.055%のレンジで安定的に推移したが、23日には週末要因から調達意欲が高まり、△0.051%となった。  
ターム物では月内物を中心に△0.05~△0.02%のレンジで取引が見られた。  
22日、米連邦準備理事会 (FRB) は米国で営業する大手銀行の持ち株会社を対象にしたストレステスト (健全性審査) の結果を公表した。今回対象の34行すべてが自己資本比率の最低基準を満たし、健全性を保っていることを示した。  
来週の予定は、国内では金融政策決定会合における主な意見の公表 (6月15、16日分) (26日) があり、海外ではイェンFRB議長講演 (27日) がある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	マイナス ~ 0.001
TDB 3M	△0.150 ~ △0.090
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約7,000億円で、週間償還額の約3,200億円 (金融機関・ABCP除く) を大幅に上回った。石油、鉄鋼やその他金融業態での大型発行と、5・10日発行絡みでの新規案件により、増加となった。発行レートは、投資家の旺盛な運用ニーズもあって、多くの銘柄で0.001%割れでの出合いであった。  
来週の償還額は、月末日の大量償還 (約2兆2,000億円) を含め、2兆6,500億円程度となっている。四半期末決算で残高調整を行う企業も多く、大幅な償還超となる見込みだが、月中発行残が15兆円台前半で推移している事と来週の新規発行で、月末残は昨年を上回ると思われる (昨年実績: 13兆5,683億円)。  
27日に、CP等買入オペが3,500億円程度でオファーされる予定。  
発行レートは、投資家の運用ニーズが相変わらず強く、概ね横這い推移と思われる。  
現先レートは、△0.1~0%程度の出合いで、横這い圏内での動きを予想する。

<TDB>

国庫短期証券市場は先週に引き続き△0.10%前後での小動きであった。22日に行われた3M第91回債の入札は、最高落札レートは△0.0962% (前回債△0.0991%)、平均落札レートは△0.1002% (同△0.1035%) と前回債からややマイナス幅が縮小。週末のセカンダリー市場では3Mが△0.098%の出合となっている。来週は29日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.075%近辺の出合いから始まり、週中には△0.06%台まで上昇した。TDB3Mの発行日となる26日受渡しは、SNは△0.06%台の取引が中心となったが、TNでは△0.05%近辺まで上昇した。週末には国庫短期証券・国債買入オペが合計1兆6,300億円オファーされたがレートは低下せず、△0.05%台での出合いとなり越週した。  
SC取引では、5年131回債が概ね△0.30%台の出合いであったが、23日の国債買入オペ後は△0.40%台でも多く取引された。その他2年372・373・374・375・376・377回債、5年130・131回債、10年334・335・343・344・345・346・347回債、20年160・161回債、30年52・53・54・55回債、40年9回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。